

今後のエネルギー政策の方向性と住宅・建築・まちづくりの対応

3.11以降、エネルギー情勢が大きな転換点を迎えていることを踏まえ、今回のセミナーでは、NPO 法人環境エネルギー政策研究所 主任研究員/山下紀明氏を外部講師としてお招きし、今後のエネルギー政策の方向性とその中で考えるべき住まいづくり・まちづくりをテーマにご講演いただいた。



山下 紀明氏
NPO 法人環境エネルギー政策研究所
主任研究員

自然エネルギーと日本のこれから

自然エネルギーとしては、太陽・風力・バイオマス・地熱・小水力・海洋などのエネルギーが挙げられ、いずれも電気エネルギーとして利用されたり研究が進められたりしているが、山下氏は「太陽熱が大事である」ことを強調されていた。

自然エネルギーは世界的にも急速に普及が進んでいるが、その中では風力発電が、原発40基分と圧倒的であり、いくつかの事例として、ドイツでの風力やバイオマス等における雇用面での大きな影響（2010年で33万人）、スペインでの風力発電の実績等が紹介された。

こうした世界的な動きに対し、日本では自然エネルギーに関する明確な政策の不在という状況から、太陽光の各年及び累積導入量がドイツに抜かれたことをはじめ、拡大する太陽光マーケティングの中で日本のシェアは減少する等、風力発電、バイオマス発電、地熱利用、太陽熱温水システムいずれにおいても各国に遅れをとっている状況が示された。

3.11以降、エネルギー基本計画が一旦白紙となり、脱原子力・自然エネルギーを求め声が高まりを見せているが、『あと2年、こうした意識が続くかどうかで、政治的な方向性が決まる』ことになり、『この2年』が日本における一つのポイントであると、山下氏は指摘された。

	1位	2位	3位	4位	5位
自然エネルギー発電設備容量(水力以外)	米国	中国	ドイツ	スペイン	インド
自然エネルギー発電設備容量(水力含む)	中国	米国	カナダ	ブラジル	ドイツ
風力発電	中国	米国	ドイツ	スペイン	インド
バイオマス発電	米国	ブラジル	ドイツ	中国	スウェーデン
地熱	米国	フィリピン	インドネシア	メキシコ	イタリア
太陽光発電	ドイツ	スペイン	日本	イタリア	米国
太陽熱温水システム	中国	トルコ	ドイツ	日本	ギリシャ

自然エネルギー：技術別上位国（2010年末までの累積導入量上位5カ国）出所：自然エネルギー世界白書2011

そして日本の方向性として、中長期的には、自然エネルギー利用を2020年に電力の30%、2050年には100%とすることを目標とし、大胆かつ戦略的なエネルギーシフトを行っていくことが必要であることを強調された。そのためには、政治的なコミットメントや固定価格制、発送電分離といった政策面での推進とともに、自然エネルギーへの恩恵が地域に入る市民参加・地域参加の仕組みなど、地域を活かす制度枠組が必要であることも今後の日本の方向性として示された。

自然エネルギー先進地域とまちづくり

続いて、自然エネルギー利用とまちづくりが結びついた先進的な取り組みが紹介され、バルセロナでは、2000年から全ての新築及び大規模改修を対象として、欧州最初の太陽熱温水器設置が義務付けられ、制度開始以前との比較では100倍の普及（面積比）となった。この義務化は、太陽熱義務化条例といったようなものではなく、建築基準の中に組み込まれていることが特徴的であると、山下氏は指摘されていた。

バルセロナでは、これ以外にも、車を減らすためのレンタサイクルの普及や秒単位で列車の到来を知らせるシステムをもつ地下鉄、電気自動車や電動バイク用スタンド、

建ぺい率ボーナス制度等、まちづくり全体で自然エネルギーを活用できる仕組みづくりが推進されていることが紹介された。その他にも、ハンブルグにおける緑の党が立ち上げた、電力会社によるソーラー設置のための屋根貸しビジネス（ソーラー設置のために屋根を提供すると、年5万円の収入が得られる仕組み）、飯田市における「おひさま進歩エネルギー」（詳細は、<http://www.ohisama-energy.co.jp/>を参照）という、地域で立ち上げ、継続していく核となる人・仕組みについても紹介された。



長野県飯田市 おひさま進歩エネルギーの一例（幼稚園の屋根に設置された太陽光パネル）

先進地域に学ぶもの、学べないもの

先に紹介されたバルセロナの例（太陽熱利用の義務化は建築許可申請の一環であること）を引き合いに出し、そこから何をどう学ぶべきかについて簡潔に示された。日本の自治体には、建築関係の権限がないというような枠組みの違いを言い訳にするのでは発展性が見込めないが、日本での太陽熱導入に可能な制度として、例えば、大規模開発時の自然エネルギー導入検討を義務化する等の策を講じれば、段階的な強化や他分野への展開も見込めるなど、地域レベルで知恵を絞って取り入れていくことの大切さを強調された。（終）

『エコ*リラ*キレイ』を合言葉に

ノーリツの環境共生への取り組み

『エコ*リラ*キレイ (Ecology_Relax_Clean&Beauty)』とは、ノーリツグループがお客様に約束する幸せな暮らしの三原色。地球にやさしい暮らしをあたりまえにする「エコ」、住まいをまるごと居心地よくする「リラ」、心身ともに美しく、健やかにする「キレイ」。そのすべてを輝かせることを目標としたブランドメッセージを柱に展開している創業60周年を迎えたノーリツの、環境共生への取り組みをご紹介いただいた。



野崎 恭介氏
(株) ノーリツ執行役員
国内事業統括部長

(株) ノーリツの取り組み

ノーリツは創業60周年を迎えたが、企業理念である『お湯と健康 愛とやすらぎ 豊かな暮らしをつくる』はこの60年間不変であり、これに基づくビジョンは、顧客視点を大切にし、「幸せ」という奥深い意味合いが盛り込まれている。そしてこれらを対外的に伝えるブランドメッセージとして『エコ*リラ*キレイ』が新たに設定された。

その企業理念を具現化するものとしては、16年前の阪神大震災での経験を踏まえた、3.11の被災地への「おふるわかしたい!」の派遣、社員の「腹落ち」のための「幸せわかし隊」という、コアメンバーによる研修等がある。

また今年からは、「太陽を楽しもう」というキャッチフレーズとともに太陽光発電にも参入したほか、3つの笑顔プロジェクト（給湯器リサイクルを通じた障害者自立支援プロジェクトによる“人の笑顔”、間伐材事業支援を通じた森林育成プロジェクトによる“地球の笑顔”、浴育・食育プロジェクトによる“暮らしの笑顔”）といった幅広い活動を積極的に展開している。ノーリツは、1997年（平成9年）には、



ノーリツでは、「ノーリツの木になるエコ」のホームページやパンフレットを通じ、「誰でもおうちでできるエコ」と「ノーリツ商品で家まるごとエコ」についての情報を発信している。

<http://www.noritzoyunet.jp/eco/index.html>

業界で初めてISO14001の認証を取得している他、2009年3月には、ガス石油機器業界として初の「エコファースト企業」認証も取得している。

また、社員の意識向上のためエコ検定の奨励・支援を行っており、その結果、社員1500人中700人が合格している。

こうした活動をベースに、ノーリツグループ全体で日本全体の1%を占めるCO2排出量（その99%が機器使用段階での排出）を、お湯まわり生活で削減していくことを目指している（高効率給湯器、太陽エネルギー利用機器、家庭用コージェネ、「見える化」と運転制御等）。

2009年には、CO2排出量では、対2000年比-8%を達成しており、2012年までに15%削減に向けて順調に進んでいるとのことである。

こういった活動を進めるにあたって、最も大事になってくるのは、人（=社員）の意識であると考えている。どの活動においてもこの面を忘れないようにしている。

また、エネルギーベストミックス提案を通じ、環境配慮の面では、省エネ⇒創エネまで、生活の面では、暖房提案⇒拡大展開した生活スタイル提案まで、幅広く展開していく方向性が示された。

ガス業界の取り組み

ガス業界全体では、(社)日本ガス石油機器工業会、日本ガス体エネルギー普及促進協議会が中心となり、『エコジョーズ化宣言2013』が推進されている。

これは、2013年3月までに戸建住宅及び新築マンションに新たに設置されるガス給湯器のエコジョーズ化100%をめざすものであり、2010年6月からスタートし、様々な取り組みが進められている。これにより将来的には、2020年に2000万台をストックすることによる445万tのCO2排出量削減を業界目標として掲げている（2010年度実績は225万台）。

この背景には、2008年度の家庭部門でのCO2排出量が、対90年比34.2%増という問題があり、国としても検討中の改正省エネ法の中で、省エネトップランナー基準達成強化策として、給湯器の「エコジョーズ化」が義務化されることが予定されている（2015年）、ということがある。

さらに、これを推進していくための課題として

- ・見える化の推進として、エネルギー使用量が表示できるリモコンの標準装備化
- ・先進的な省エネ運転の普及として、ユーザーの意思で“省エネ運転を楽しむ”ための機能の検討
- ・スチロールレス梱包やリターナブル梱包等、流通段階での環境配慮

が挙げられた他、既存集合住宅への設置の際の制約（ドレン水の排水、スムーズな排気処理等）についても触れ、これらに積極的に取り組んでいくことが示された。（終）

■ (株) ノーリツホームページ

<http://www.noritz.co.jp/>

■ 『エコ*リラ*キレイ』ホームページ

<http://www.ecorelakirei.com/>